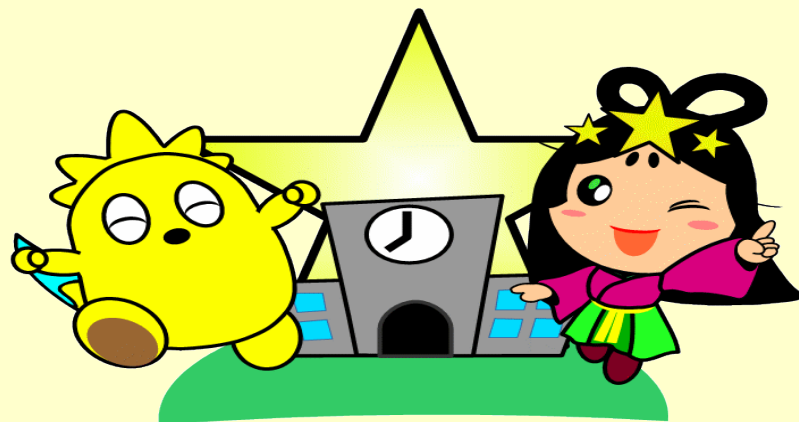


# 第一中学校区における学校施設整備の状況について

## 第一中学校区における学校施設整備の新たな提案



# グラウンドがせまいことについて

## ○敷地拡張について

- ・施設一体型小中一貫校の反対理由として、グラウンドがせまいとのご意見を頂戴していることを重く受け止め、児童・生徒のより良い教育環境の向上を図ることを目指すため、隣接地等を活用することにより、現計画よりも広いグラウンドの確保を努力
- ・敷地（グラウンド）の拡張については、道路などを挟んだ飛び地よりも一体的な土地活用ができることが望ましいことから、隣接地を取得しサブグラウンドを拡張することを優先に、計画を実施予定
- ・敷地（グラウンド）を拡張する場合の造成、建物建築計画の変更は、各種協議や変更許可申請等の手続きが必要であり、整備費用・整備期間等に影響を及ぼす可能性があることから、第2期工事として進めることが望ましいと考えており、できる限り早い時期に拡張部分が整備できるよう用地確保を努力



## ○開校後のグラウンドについて

- ・第二期工事完了までの間は、放課後のクラブ活動をいきいきランドのグラウンド、パシオン情熱Stadium(私部公園) 多目的グラウンド、第一中学校等で実施可能かどうか検討することで、放課後の児童・生徒の活動の場の確保を努力



# 敷地内にプールがないことについて

## ○敷地内のプール設置について

- ・PTA実施のアンケートによるといきいきランドへの徒歩での移動についての不安が根強い
- ・プールを敷地内に設置すると、グラウンドがさらに縮小されることから、困難
- ・プールを建築物上に設置することは構造上ないしは斜線規制により困難

## ○他の小中学校との格差の是正について

- ・他の小中学校については、効果検証を行い、学校へのインストラクターの配置を検討
- ・他の小中学校の児童生徒によるいきいきランドでの体験授業の実施を検討

## ○今後の学校プールの在り方について

- ・市内の今後の学校のプールの在り方について検討を行い、今後の学校プールの在り方について取りまとめ
- ・市内の全小中学校で活用できるような、室内温水プールの整備についても検討を実施し、バスでの移動による活用を含めて検討



# 小学生と中学生が一緒に校舎で学ぶことについて

## ○小学生と中学生を一緒にすることすることについて

- ・ 9年間を見通して、小中の教員が子どもを見守ることができるため、課題等を速やかに共有でき、支援体制が作りやすいとともに、教職員間の意識も1つにまとまり学校運営に反映しやすくなる。また、異学年の交流機会をより確保できるとともに、より多くの教職員が子どもと関わることができ、子どもを多角的・多面的に見ることが可能となり、児童・生徒の安心感にもつながる

## ○義務教育学校での行事及び教員や管理職について

- ・ 6年生での卒業式や修学旅行については、名称は変わったとしても、それに代わる行事を行うことが可能、管理職については、校長は1名だが、副校長や教頭を複数とし、教員数を合わせても小学校、中学校が別の場合と同数の配置

## ○小学校1、2年生について

- ・ 小学1、2年生については、登下校時の昇降口等での体の大きい中学生との交錯を避けることから、2階の教室には直接バルコニーへの階段を上り、各教室に直接入ることが可能

## ○教室配置について

- ・ 普通教室については、2階に小学校1年生から小学校4年生、3階に小学校5年生から中学校1年生、4階には中学校2、3年生を配置
- ・ 小学生と中学生が同じフロアを利用するが、教室の間には、特別教室が3教室、また、学年ラウンジとした広い廊下もあり、同じ建物ではあるが、事実上、別棟を渡り廊下でつないだ2棟建て校舎と同様の構造であり、授業時間の違いにも対応可能、チャイムについては切替えが可能

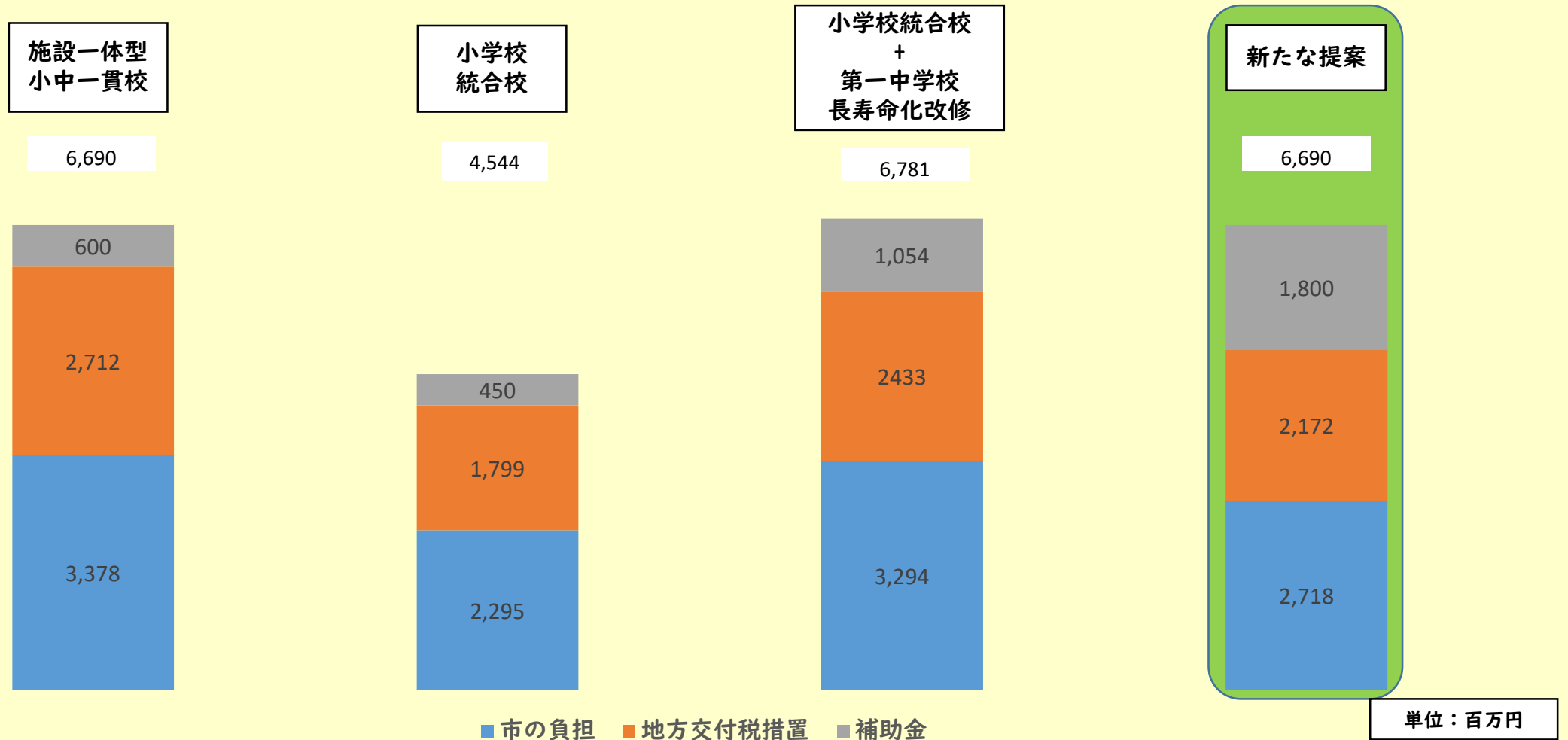
## ○避難について

- ・ 2階に多くの児童が学校生活を送ることから災害時の避難について心配の声がありますが、建物内から避難できる階段が3箇所、テラスに1箇所、バルコニーに1箇所と合計5箇所の階段を設置
- ・ 他の各小中学校にはない、バリアフリーにも対応したエレベーターを設置

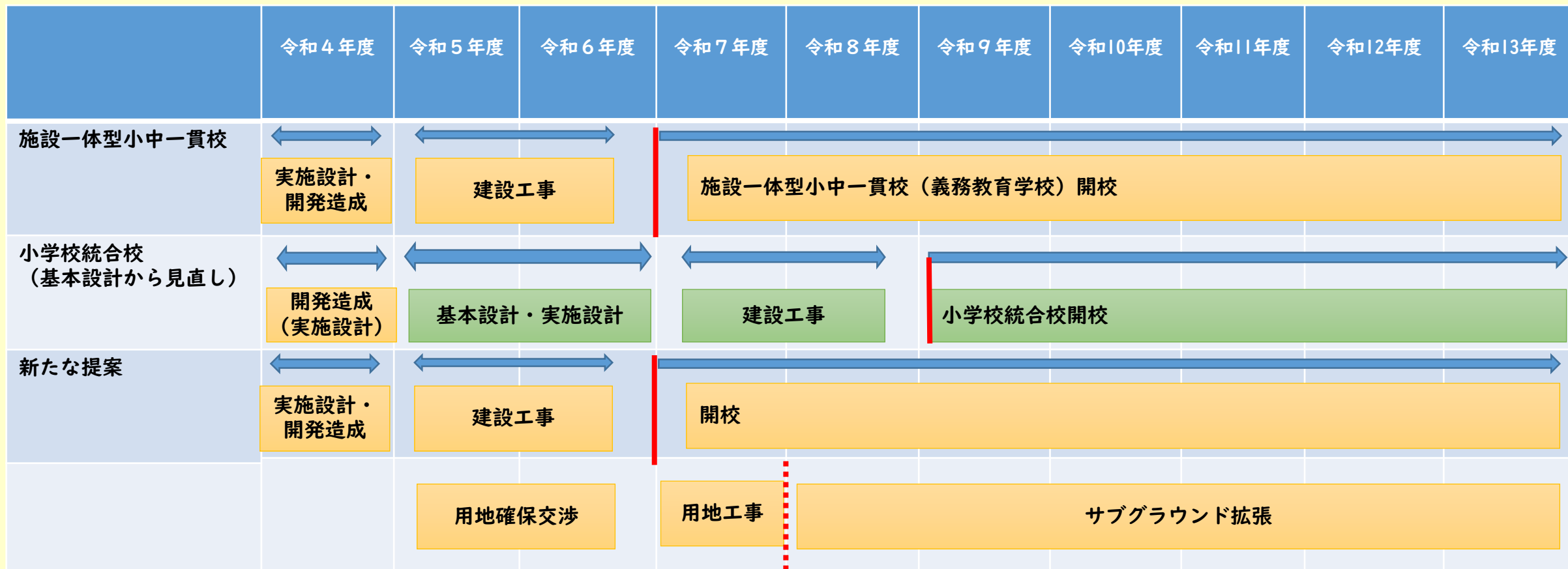


# 費用負担について

○義務教育学校とし、さらに旧交野小学校の建築面積分も文部科学省と協議をすることで、保有面積から除外して整備資格面積に含めてもらえることにより、国庫補助金が大幅に増額見込



# スケジュールについて



注1 小学校統合校の基本設計・実施設計は約24か月、建設工事期間は約16か月

注2 用地確保交渉によってはサブグラウンド拡張は遅延の可能性があり（上記スケジュールは最短での予定）

# メリット・デメリットについて

		施設一体型小中一貫校	小学校統合＋ 第一中学校長寿命化	新たな提案
グラウンド	メリット		小中別にグラウンド	いきいきランド等グラウンドを利用 将来的にグラウンド拡張
	デメリット	1つのグラウンドを小学生と中学生が利用		グラウンドの拡張に工事費が必要
プール	メリット	温水プールにインストラクター	敷地内にプール	温水プールにインストラクター 将来的にバスで送迎の可能性
	デメリット	いきいきランドまで徒歩		いきいきランドまで徒歩 ※将来的にバスで送迎の可能性
校舎	メリット		小学校と中学校が分離	
	デメリット	小学生と中学生が同じ校舎を利用		対策はするが小学生と中学生が同じ校舎を利用
費用負担	メリット			国庫補助金が約12億円増額
	デメリット	第一中学校の転用費用が必要		第一中学校の転用費用が必要
スケジュール	メリット	令和7年4月開校予定		令和7年4月開校予定 グラウンド拡張は令和8年4月予定
	デメリット		令和9年4月以降開校予定	
小中一貫教育	メリット	9年間を見通して小中の教員が子どもを見守る 異学年の交流機会を多く確保		9年間を見通して小中の教員が子どもを見守る 異学年の交流機会を多く確保
	デメリット	小学校高学年のリーダー性の懸念	小中交流時に移動が必要	